

総大主教ジョン 10 世の挨拶

聖エジディオ共同体主催「平和への道」 ミュンスター 2017年9月10日

平和と希望のメッセージ

「使徒たちが最初にキリスト教徒と呼ばれた」（使徒 11：26）アンティオキアの使徒教会から、心からの愛、揺るぎない信仰、そして絶え間ない希望をもって、私は平和のメッセージをみなさんにお届けいたします。

今日、私たちの美しい故郷は、地域社会を分断し、平和な生活への誠実なる大望を粉碎しようとする不運な紛争に襲われています。この現在の暴力は、私たちの地域では前例のないものであり、「暗黒時代」においても聞いたことはありません。私たちの国で知られているいかなる宗教とも無関係の過激な宗教団体によって異教徒の戦争が行われています。これらはむしろ人道的感情、感性、良心が欠如した過激主義の行為です。

そこで、私たちは問いかけます。私たち村人や市民を組織的強制的に排除した責任はだれにあるのか？母親が子供を失ったことを誰が悲しんでいるのか？崩壊した家や礼拝所、または歴史が始まって以来居住していた先住民族が地方から追い出されたことを誰が嘆いているのか？誰か人質を慰め、囚人を訪問し、負傷者をケアしているのか？おそらく、世界は、奴隷の女性、子宮に刺された妊娠中の女性、そして強制的に軍隊に入れられた子供たちの闘争を無視したいと思うかもしれません。愛すべき子供を誘拐され、ひたすら待ち続けている両親を誰が慰めようとしているのか？実際、私たちのこの状態は聖書の言葉にもあります。「レイチェルは子供のために泣いています。彼女はもはや彼らのために慰められなくなりました」（マタイ 2:18; 第 31 章 15 節）。

ユウハナ・アブラハム司教とポール・ヤジギ司教、そして4年以上にわたり他の司祭たちが人質にされた事件を、世界社会がどうして無視しているかを私は理解することができません。この世界の政治指導者たちが、近視眼的な非人道的な計画に役立つ経済的、地政学的利益を支持するだけで、彼らが腕組みして、私たちの国でおこっている血まみれの暴力を見ながら、立っていられるのか、私は理解できません。

彼らは飢えた人々に対して彼らの封鎖をしっかりと締め付け、武器市場への幅広い道を与えています。私たちは、暴力的なタクフィリズム（ほかのイスラム教徒を破門すること）が地理的な地点に限定されず、レバント地方の民族や教会を排他的に対象としているわけではないということ、そしてそれはむしろ世界のあらゆる地方に浸透していることを体験してきたことを考えなくてはなるのでしょうか？

アンティオキア教会は、このような苦痛にもかかわらず、喜んでクリスチャンと非クリ

スチャンとの対話を追求し、他の人々と出会い、福音の愛と「恥ずかしくない」（ローマ 5:5）という確固たる希望を彼らと共にすることを楽しみにしています。私たちは平和を信じ、それを実現しようと努力しています。人類の歴史において、暴力的な対決の考え方は、破壊し、分散させ、そして嫌悪と敵意の傷を深めるだけであることを長い年限をかけて体験してきており、私たちは、戦争や武器の使用を避けようと努力してきました。それは決して、国家、民主主義、そして自由を築くものではありません。

今日、レバント地方のクリスチャンは、自分たちの叫びを聞く人を捜しています。しかし無駄に。わが国では、私たちは平和と和解を求める者です。すでに述べたように、私たちは慈悲のためにこの世界の力を願っていません、私たちはむしろそれらに叫びます。クリスチャンを受け入れるように国々への偽の呼びかけはもう十分です。私たちのレバント地方に対話の文化を広め、剣の文化を払拭することで、世界はもっと良くなるでしょう。私たちの国をテロリズムの支配から解放し、武器の流れを止め、あなたの船には戻ってもらう！戦争の船は私たちを守ることはできませんし、移民の船も同様です！平和のルーツを植え付けることだけが、唯一私たちを守ることとなります。私たちは2千年の間、ここ、レバント地方のいたるところに根ざしています！私たちはここに生まれ、ここに生き、ここで死ぬでしょう。

今日、人類は、了見の狭い政治といった障害や罪を超えた本物の対話と出会いを早急に必要としています。その政治には、厳格なイデオロギーと偏見を投げ捨て、歴史の障害、仮面、そして複雑さを解消する和解と合意に基づく政治的な人道的なアプローチが欠けています。今こそまさに、多くの人々によって導かれた政治的計画や表向きの対話が、不毛の土地での努力を無駄にただけであり、実利主義的成り上がり主義的動機と男性の社会によって自主的に課せられたいい加減なモデルによって悪用されただけであると告白すべき時ではないでしょうか？

私たちは今日、宗教の馬鹿げた搾取と政治的征服に立ち向かわなければなりません。したがって、この演壇から、世界のあらゆる宗教教団の指導者の方々に「平和のための信仰」というモットーを声高に唱えることをお願いしたいのです。そうして、私たちは、世界が大変必要としている平和の使者になるのです。

今日、私たちは、出会い、ともに努力するために集まりました。そして、私たちの関係、私たちの信念、そして他の人への行動における平和の真のモデルを私たちはともに世界に提供します。これは、世界に平和を与える方法であり、個人と地域社会の両方において、人間の心にある真の平和だけが、歴史的記憶と人間関係におけるすべての傷を癒すことができることを証するための方法なのです。

多様な宗教的背景と文化的アイデンティティを持つ私たちは、その違いを超えて共通するものを持っています。レバント地方では、常に異なる信念や文化的背景を持つ兄弟との共存の価値を感じてきました。私たちは、多様性が人類にとって、そして文化的交

流、発明的芸術、美学、知的創造のために不可欠であること、またそれらを豊かにするものであることを経験しました。

私たちは皆、和解に進む必要があります。相互に対話し知り合う会合を設けることが不可欠です。私たちは皆、人を分裂させる文化における私たちの役割を認識していますか？私たちは歴史の障害を克服し、より良い未来を子供のために築くために努力していますか？

苦しみの経験が、現代の政治的、社会的、宗教的活動を再考するために人類をより賢明し、お互いを遠ざけるよりよりむしろ近づけることになることをもう私たちは知るべきです。私たちは心からの和解と寛容を通じて社会を癒すために協力することが強く求められています。

最後に、兄弟姉妹である皆様方に、アンティオキア教会とすべての東方教会において私たちは大きな希望を持って生きること、そしてすべての宗教、地域社会、文化の平和な共存と誠実な対話が永遠の和解と真の平和実現の基礎であると信じていることを私は断言いたします。

ありがとうございました。